


熱中症の症状と分類

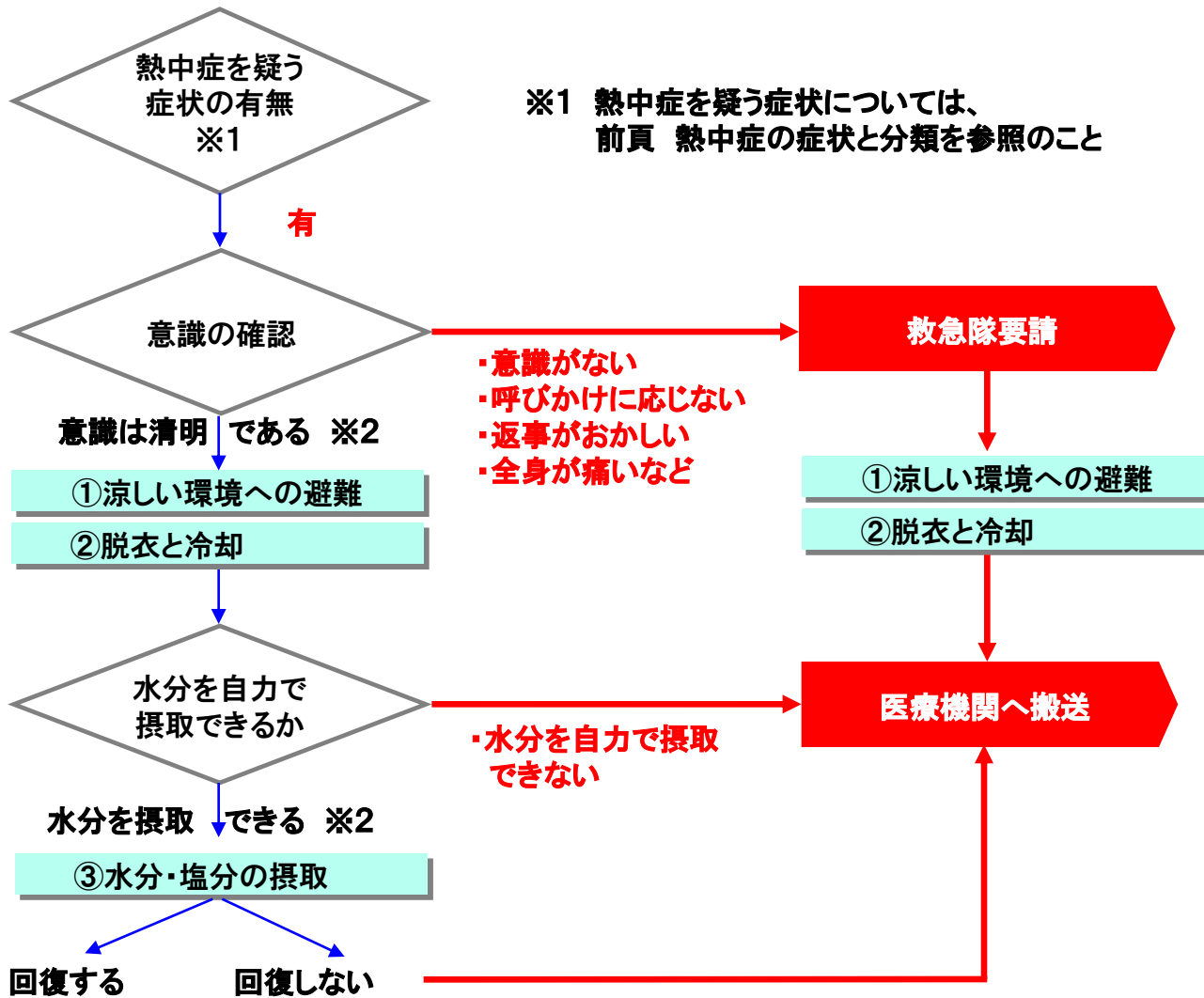
>>現場でわかる応急処置<<

(株)六協(Ver1:2021年8月23日版)

熱中症の症状と分類

分類	症状	重症度
I度	<ul style="list-style-type: none"> ●めまい・生あくび・失神 (「立ちくらみ」という状態で、脳への血流が瞬間的に不十分になったことを示し、“熱失神”と呼ぶこともある。) ●筋肉痛・筋肉の硬直 (筋肉の「こむら返り」のことで、その部分の痛みを伴う。発汗に伴う塩分の欠乏により生じる。これを“熱痙攣”と呼ぶこともある。) ●大量の発汗 	<p>小</p>  <p>大</p>
II度	<ul style="list-style-type: none"> ●頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感 (体がぐったりする、力が入らないなどがあり、従来から“熱疲労”といわれていた状態である。) ●集中力や判断力の低下 	
III度	<ul style="list-style-type: none"> ●意識障害・痙攣・手足の運動障害 (呼びかけや刺激への反応がおかしい、体がガクガクと引きつげがある、真直ぐに走れない・歩けないなど。) ●高対応 (体に触ると熱いという感触がある。従来から“熱射病”や“重度の日射病”と言われていたものがこれに相当する。) 	

熱中症の救急処置（現場での応急処置）



(※2)

意識が清明である又は水分を
摂取できる状態であっても、
前頁Ⅱ熱中症が疑われる場合
は、医療機関への搬送を検討

(※その他)

体調が悪化するなどの場合に
は、必要に応じて、救急隊を要
請するなどにより、医療機関へ
搬送することが必要である